

題 材 名	「わたしたちの生活と住まい～安全で快適な住まいを工夫しよう～」		
内容・項目	C- (2) 「住居の機能と住まい方」		
指導時間	7 時間		
題材のねらい (題材の特徴)	<p>本題材では、「住居の安全で快適な住まい方についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、住居の機能について関心と理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって住生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。」ことをねらいとしている。</p> <p>指導に当たっては、生活につなげる体験として気づく、考える、感じる場を設定するとともに、生徒の実態や小学校、社会科（地理）との関連を図り、写真や図を利用して住まいの安全性を検討したり、音の調査から音と生活とのかかわりに気づかせたり、学習した知識や技術を活用して安全で快適な住まいの工夫を提案する学習（ワークショップ）をするなどをしてねらいに迫りたいと考えた。</p>		
学習の流れ (展開の工夫)	時間	学習項目	主な指導内容
	1	・ 住まいの役割と基本的な機能	・ 住居の広告や視聴覚機器を利用して社会科で学習した世界や日本の人々の生活や気候風土について振り返り、住居への興味・関心を高める。
	2	・ 安全を考えた室内環境の整え方と快適な住まい方	・ 自分や家族の住空間と生活行為とのかかわりについては、住空間を想像できるような写真や簡単な図を用いて興味・関心をもたせ、生活行為がどのような住空間で行われているかを考えさせ、住居の役割を理解させるようにする。
	3		
	4		
	5	・ 安全で快適な住み方の提案・発表（ワークショップ）	・ 室内の写真や住空間の図などから危険な箇所を点検したり、過去の災害例から必要な備えを検討したりする。 ・ みんなで使う場所の掃除については、教室や調理室で実践をする。 ・ 音と生活とのかかわりについては、周囲に発生する音の測定を行い、快適な生活を送るための工夫ができるようにする。 ・ グループで幼児や高齢者など様々な年齢で構成される家族を想定して、安全で快適な住み方を提案・発表する。【かかわり】 ・ 個々の生活に生かす。【学ぶエネルギー】
	6		
	7		
準備・材料等	教科書、学習カード、拡大写真（住居、地震災害等）、住居空間図、掲示カード、住宅カタログや広告		